

建築設計競技への挑戦

【建設工学科3年 栗田陸玖・佐名水月・高橋樹生・三宅皇明・山内颯人】

1 はじめに

私たちは三年間学んできた製図の知識、技術を活かし設計コンペに取り組んだ。

2 概要

数あるコンテストの中から私たちは次の課題に取り組むことを決めました。

- 三宅 3軒のお一人さまハウス
- 高橋 災害後も暮らし続ける家
- 栗田 「新しい」オフィス
- 山内 「新しい」オフィス
- 佐名 「新しい」オフィス

各自テーマが違うため、次のように計画を立てて、作業を進めていった。

3 年間計画

以下の予定で各自作業を進めていった

- 5月：課題選択
- 6月：テーマ、コンセプト決め
- 7月：エスキスプラン
- 8月：31日提出期限
高橋、三宅完成、その他製図
- 9月：30日提出期限
佐名、栗田、山内完成
- 10月：作業まとめ 模型製作

4 各自の取り組み

4-1◆三宅案◆

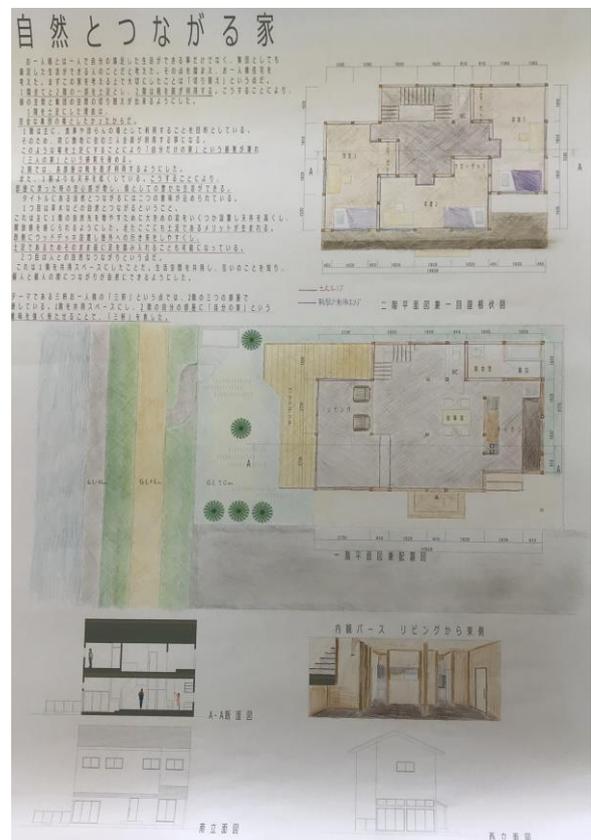
<テーマ> 3軒のお一人さまハウス

<題名> 自然とつながる家

4-1-1<作品詳細>

- ・「3軒のお一人さまハウス」として工夫をした点を具体的に示すこと。
- ・設計する住宅の周囲の状況が分かるように表現すること。
- ・敷地や建物の規模は自由。住むための用途であること。
- ・どのような人が、どのように使うのか、わかるように表現すること。

お一人さまの意味を考えた上で、全体のコンセプトとして、自然公園をイメージし設計をした。



4-1-2<趣旨>

一階は、主に土足で生活するようにした。そして、西側にある窓を大きくした。二階の各部屋は靴を脱いで利用し、窓も一階より小さくした。こうすることで、集団の場と、個人の場の切り替えが出来るようにした。自分の思うお一人さまは一人でも集団でも満足のお生活ができる人のことだと思う。そして、この家は一人ではなく三人で住むので、この切り替えが出来ることにより、二階部分がより自分の家という感覚を強めている。

4-2●高橋案●

<テーマ> 災害後にも暮らし続ける家

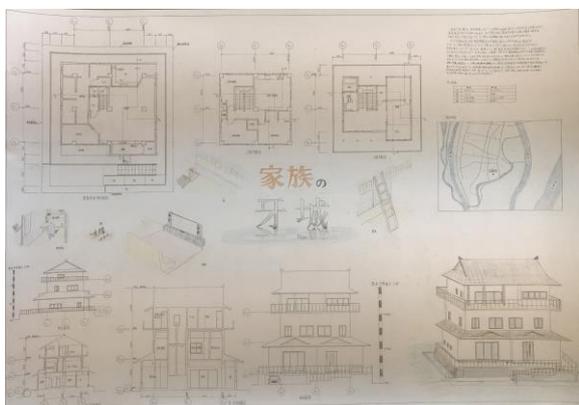
<作品名> 家族の牙城

<概要>

戸建ての住宅。敷地の大きさ・場所は自由。周辺環境の説明。構造・階数は自由。家族構成・所要室も各自それぞれ設計する。

4-2-1<コンセプト>

私は、災害が来た後もそこに家の痕跡が残っていることで、「ここが我が家だ」と言える家を目指しました。



4-2-2<作品説明>

設計予定地を水害の多い地域にしたので、石垣を積み、その上に住居を建てることで垂直避難することができる高さを確保しました。そして、避難中の生活に支障をきたさないように生活に必要な部屋・機能を上階に配置しました。1、2階をコンクリート造とすることで、耐水性も高められるようにしました。また、通常時もくつろげる家を目指して、1階に趣味室や中庭、3階に展望スペースを設けました。

4-3 ◆栗田案◆

<概要> (栗田、山内、佐名共通)

日本建築協会主催、第67回工高生デザインコンクール「新しいオフィス」

既成概念にとらわれない「新しい」オフィスの提案

4-3-1<コンセプト>



いろいろな人が働きやすいオフィス。

4-3-2<作品説明>

～新しいオフィスについての自分の考え～

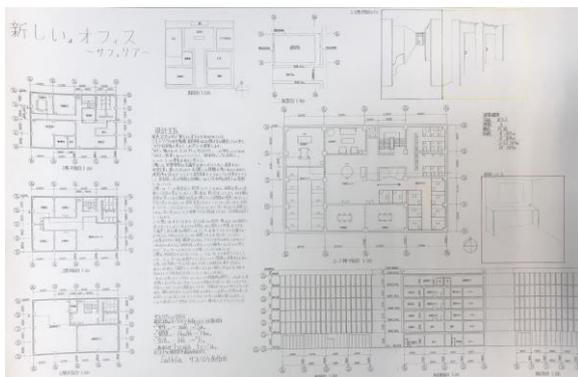
・働き手に合った環境で仕事することができ、

働き手が気軽に休憩することができる環境で、LGBTの方が気軽に使用することができるトイレやコロナ対策について考えました。

・これからの社会では人々の多様性が大事だと自分は考えました。人種や性別、年齢に関係なく、それぞれの人々が生き生きとして働ける社会にしたいと思いました。性別という観点で考えたところLGBTの方たちが、主にトイレでの周りからの視線に苦労していることが分かりました。私は、LGBTの方たちに周りの目を気にしないでトイレを利用してもらうために、「オルタナティブ・トイレ」を設計しました。

4-4♣山内案♣

4-4-1<コンセプト>



「安心」なオフィス

4-4-2<作品説明>

～テーマについての自分の考え～

・コロナ禍で仕事の仕方が変わっていく中
リモートワークが増え、運動不足などの
健康が損なわれていく中で、

「感染症対策」

「生活的な安全」

「健康的な安全」の3つをキーワードに

オフィスの在り方について考えました。

今までの人数分のデスクがあり、

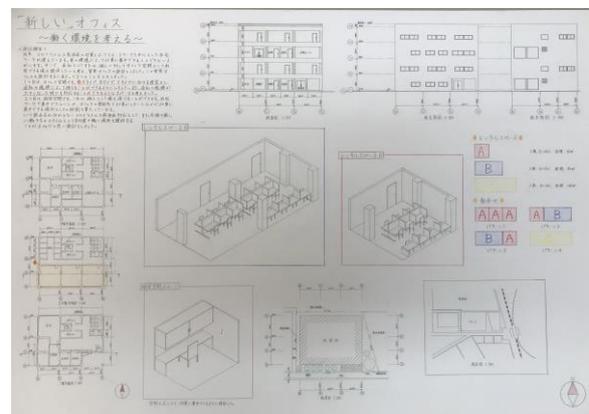
その空間で仕事をする働き方ではなく、

個室を設けたり、オフィス空間の大きさ

を変えたりすることで働きやすさを求めた。

4-5★佐名案★

4-5-1<コンセプト>



「賃貸」オフィス

4-5-2<作品説明>

私は、新型コロナウイルス感染症が流行している今、働き方が変化しています。家で仕事をする機会が増えています。集中できる環境があるとならないのでは仕事の効率が変わってきます。そこで、働く場所を選ぶことが大切だと考えました。だから私は、人数によってオフィス空間の大きさを変えたり、個室を作ったりすることで働く環境を選べるようにしました。

5 感想・反省

<三宅>

この課題をやっていて、自分の頭の固さを実感した。決められた建蔽率と容積率の中で、三軒を表現するのにとても苦労した。このようなことは進学後も行うので、この経験を生かしていきたい。

<高橋>

建築面積が設定されていなかったの、大きさや土地の形を途中何度か変更してしまい、案をまとめるために設定をしっかりと作ることが大切だと感じました。設計するにあたって、色々なことを調べながら作業をすることが出来て良かったです。

<栗田>

私は設計コンペを通して、設計することの大変さを学びました。今のオフィスの情報収集をして、どうすれば「新しいオフィス」になるかを考えました。今回自分は、LGBTについて着目しましたが、他にも今のオフィスには課題があることが分かりました。これからのオフィスを考え、設計することはとても楽しく、とても大変でした。しかし設計コンペで私は、一つの視点から考えるのではなく、いろいろな視点から物事を考えることの大切さを学ぶことができました。

<佐名>

最初は分からないことが多く中々進まなかった。また、時間に余裕がないにも関わらずサボって最後にしわ寄せが来た。だから、今後は計画的に進めていきたい。

<山内>

私は設計コンペを通して、設計することの厳しさを学びました。現在のオフィスはどのようなになっているかの情報を集め、「新しい」オフィスを作るにはどうすればいいかを考えました。今回は、新しい生活様式になってきた中でこれからのオフィスについて考えて設計できたことは、自分にとってとてもいい経験になった。今回の経験を生かして別の課題にも色々な視点から物事考え、設計していきたい。

6 まとめ

三年間学んできた知識・技術を生かして設計コンペに取り組んできた。個人で取り組んだ課題がそれぞれ違うため、それぞれが違う壁に当たってしまうことが多々あったけれど、一つの課題に対して全員が意見を出し合い、高め合っていくことができていた。今回の課題研究でそれぞれ課題が見つかりそれを解決していく力が身についたと思う今回、新たに学んだことや身についたことを生かして将来に繋げていきたい。